



センターだより
第29号
平成25年12月9日
発行

平成25年度「研究発表会」のご案内

～これからの教育を見通して、現場に役立つ研究を～

当センターにおける研究成果を広く教育関係者に発表し、本県の教育向上に資することを目指して「研究発表会」を開催いたします。

＜期 日＞ 平成26年1月8日（水）10:10～15:30

＜場 所＞ 青森県総合学校教育センター

※ どなたでも参加できます。（食堂も営業しています）

【参加申込方法】

（1）Webによる申込

当センターWebページ (<http://www.edu-c.pref.aomori.jp/>) にアクセスしてください。『平成25年度青森県総合学校教育センター研究発表会』をクリックすると、入力フォームから申し込みができます。

（2）郵送・FAX・Eメールによる申込

県内各校に配付済みの「参加申込書」をコピーし、所定の事項を御記入の上、郵送、FAX、またはEメールで送付してください。

（3）お申し込み先

「青森県総合学校教育センター研究発表会」担当あて
FAX 017-728-6351 TEL 017-764-1996
E-mail: furukawa-takaki@m23.asn.ed.jp

（担当：義務教育課 古川 貴紀）

【日 程】

＜受付＞ 9:45～

発表1 10:10～10:40

ミニ研修 10:50～11:20

発表2 11:30～12:00

（昼休み・休憩）

発表3 13:00～13:30

発表4 13:40～14:10

ミニ研修 14:20～14:50

発表5 15:00～15:30

※ミニ研修では、各プロジェクト研究を紹介します。お申し込みは不要です。

「お申し込み」、「お問い合わせ」をお待ちしております

こんな 研究 しています!!

当センターでは、研究事業の一つとして、校種や専門領域を超えて「プロジェクト研究」を行っています。①「活用するカプロジェクト」、②「情報モラル教育プロジェクト」、③「授業のスタンダードづくりプロジェクト」、④「いじめ対応プロジェクト」、⑤「キャリア教育プロジェクト」、⑥「指導要録の電子化プロジェクト」のうち、今回は、「授業のスタンダードづくりプロジェクト」、「キャリア教育プロジェクト」、「指導要録の電子化プロジェクト」をご紹介します。

＜授業のスタンダードづくりプロジェクト＞

私たち「授業のスタンダードづくりプロジェクト（通称ユニプロ）」は、子どもたちが「わかる」「できた」を実感できる授業をつくるにはどうすればいいのか、そもそも「わかる」授業とはどのような授業のことをいうのか、「わかる」授業をつくるために教師はどのようなことに気づかなくてはならないのかということを、実際の授業VTRを分析しながら、各課から集まった10名の指導主事、研究員が検討しています。

先日行われた「あおもり教育フェスタ2013」では、これまでの研究成果の一部を模擬授業の形にしてお見せしました。実際に授業を見てくださった方からは、「少しの工夫で授業が大きく変わることを実感した。」「教師の指示の仕方一つで、子どもの学びが変わるということを見て取ることができた。」などの感想を頂戴しました。

この後、「わかる」「できた」を実感できる授業とは何か、その授業を支えるためには、どんな仕掛けが必要なのかをまとめ、センター研究発表会等で紹介したいと考えております。



「あおもり教育フェスタ2013」
模擬授業の様子

「わかる」授業とは？ 本プロジェクトにおける「わかる」授業

- ① 児童生徒の「実態」を十分に理解して計画され、
- ② 児童生徒に授業「意図」が明確に伝わり
- ③ 児童生徒が「主体的」に学習に取り組むことができ
- ④ 児童生徒が「できた」「わかった」という「実感」を持てる 授業

私たちの考える「わかる」授業

<キャリア教育プロジェクト>

「これから生きていく中で、課題について考え、たくましく行動することができる力」、「コミュニケーションをとりながら自分の役割をはたしていく力」、「自分らしく生きていく力」...



私たち教師は児童・生徒に身につけて欲しい力がたくさんあります。キャリア教育プロジェクトでは発達段階やそれぞれの学校に応じてどのような方法や工夫ができるのか、先生方の研修のための資料作成や協議・演習の方法などを研究しています。

キャリア教育を推進する先生方の支援が少しでもできるよう、講座や学校支援関連事業で研究したものを紹介していきたいと考えています。



<指導要録の電子化プロジェクト>

文部科学省は「教育の情報化に関する手引（平成21年）」において、効率的な校務処理は教育活動の質の改善につながるとして、校務の情報化を推進しています。また、群馬県教育委員会が教職員を対象に実施した「校務の情報化に関するアンケート」（平成21年度）調査結果によると、負担を感じている校務として最も多くの回答が得られたものが「指導要録作成」（47.6%）でした。

当センターでは、研究事業として指導要録の電子化プロジェクトを立ち上げ、運用ルール案と印刷用ソフトウェアを作成しました。

平成25年度センター研究発表会において、ご紹介しますので、ぜひ、足をお運びください。



当センターのSAMURAIを紹介!

【マイ・ライフヒストリー】

<小・中・高校生時代>

田んぼアートで有名になった田舎館村に生まれ、稲作と林檎の作業をなぜ手伝わなければならないのかと思いながら育つ。小・中学校では帰宅部に所属し、缶蹴りなどの昔ながらの遊びや野球などで放課後を過ごす。高校ではパソコンが出始めた時期でもあり、マイコン研究部へ所属。

<大学生時代>

親元を離れ、〇〇工業大学へ。裕福とはいえない家庭での出費に答えるためにもと勉学にいそしむ（自己満足?）。

<そして就職...>

青森県立青森工業高等学校に採用。3年後に、青森県立五所川原工業高等学校へ。ここでは、ソーラーカーの製作に燃える。その後、青森県立弘前工業高等学校の勤務を経て、センターへ。



<産業教育課>

く どう かす き
工 藤 和 樹 指導主事

★センター勤務3年目

★妻、子ども2人、
両親の6人家族

今、こんなことやってます!燃えています!

★市町村教育委員会との連携した 教育の情報化推進

県内小中学校の情報化推進に対し、市町村教育委員会と連携をはかり、共同研究を行うことで、地域の情報化推進を進められると考えています。

★NetCommons活用を推進しています

情報発信の手段としてHPの活用がありますが、更新されないと情報が伝わりません。HP作成アプリケーションのスキルがなくても、NetCommonsであれば、ブラウザ上で更新が可能です。今年度から研修講座もありますので、是非センター研修を活用してください。

先生方への
メッセージ

基本中の基本かもしれませんが、「教材研究」を大事にしましょう。多忙な中で行うことは大変ですが、子どもたちの分かったときの笑顔を思えば苦にならないですね。

工藤指導主事の「ある一日」

5:50 起床
6:50 家を出る
8:00 出勤
メールの確認、所内グループウェアの確認、ICT関係の情報などを確認
8:30 産業教育課の朝会
8:40 前日までの出張に対する復命書等の作成
10:00 所内にてエコスクール事業の関係者と打合せ
12:00 昼食
12:45 所内にてエコスクール事業の関係者と打合せ
15:30 翌日の研修講座の会場準備
17:00 臨時メールアドレスの発行処理
18:30 退勤